

# ネパール 全国のダリット女性が結集

“尊厳・包摂・社会変革”を求めるFEDOの全国大会(2011年5月11日～13日)

FEDOとは

フェミニスト・ダリット協会 (FEDO) はネパールのダリット女性の権利確立のために1994年に設立されたNGOであり、これまでの17年間、ダリットの権利の促進、カーストやジェンダーに基づく差別の撤廃、そしてネパール社会における公正と平等の推進のために活動してきた。FEDOはダリット女性の意思決定過程への参加、市民的および政治的権利の保護と促進、司法や保健サービスへのアクセス、職業スキル、教育、経済的エンパワーメント、保健衛生、資源へのアクセスなどを確立させるため、地方レベル、国レベル、国際レベルで活動に取り組んでいる。

FEDOは全国規模の組織であり、45郡に支部をもち、2000以上の女性グループと400人以上の女性活動家が結集している。

なぜ、全国会議なのか？

ネパールでは、ダリット女性は、何世紀にもわたりカースト、階級、ジェンダーに基づく暴力や差別を受けてきた。あらゆる分野でダリット女性は最下層に置かれてきた。女性たちはコミュニティにおいて尊厳をもって生きる権利を剥奪され、カースト制を基礎とした社会のヒエラルキーと家父長制が生み出す差別的慣習により権利の享有と行使から排除されてきた。今日のネパール共和国においても、一般的にダリット、特にダリットの女性たちは、二級市民として扱われている。

そのため、ネパールのダリットは現憲法が定める権利の完全な行使を妨げている差別的慣習の即時撤廃を求めている。そのためには現在進められている憲法起草プロセスに積極的に働きかけ、包摂的な憲法の制定が必要である。ダリット女性の要求を実現するためにも、私たちは、新憲法があらゆる国家機関への女性の参画と女性たちの尊厳ある生活を保障する鍵を握っていると考えます。これまで、ネパールの政治組織はダリットの要求に関心がなく、真摯に聞こうとしてこなかった。周辺に追いやられた人びとは、自ら立ち上がり、声をあげ、議会や政府に積極的に働きかけないかぎり、問題が正式に取り上げられることはないという過去の事実より、私たちは全国レベルのダリット女性大会を開催するに至った。

大会の目的

- ・全国各地のダリット女性の多様な問題について、政党、政府そして市民社会が認識するよう働きかける。
- ・政党や憲法議会のメンバーに包摂的な憲法の速やかな発布を求めて働きかける。
- ・政党、政府や市民社会に対して、継続中の和平プロセスを理にかなった形で終結させるよう働きかける。
- ・ダリット女性の連帯を構築し、国内のみならずアジアやヨーロッパの女性たちとの経験交流を推し進める。

3日間の大会が成功裡に終了

大会には、ネパールの75郡からのダリット女性活動家、人権活動家、NGOの代表、メディア、そしてデンマーク、英国、インド、バングラデシュ、香港からの代表が参加した。また、政府からも来賓が多数参加した。初日の朝8時30分から800人以上によるデモ行進で幕を切った。ダリット女性の権利とこれから発布される新憲法に関して、さまざまなスローガンを唱えながら参加者たちは街を練り歩いた。最終地点の市庁舎に到着後、大会会場に移動した。3日間の協議では、起草中の憲法にダリット女性の権利をいかに反映させるか、ダリット女性の問題、国際経験の共有、極西地域のダリット女性の問題などの報告があり、それらを受けたあとにグループ討論が行われた。最後は討論の内容を共有化と主催者のまとめにより、成功の裡に3日間の大会は幕を閉じた。

(訳：編集)



全国ダリット女性大会に集まる女性たち

ダリット女性の権利を訴えるデモ行進

